

第五項

第五項歩行ノ姿勢一凡ソ校ノ内外ヲ問ハス歩行ノ節ハ體操科ニ於ケル行進ノ姿勢ヲナス

法部局第一三二號

行政部第四十九號

管第ニ〇四六號

函館商船學校生徒ノ件

逋信省所轄函館商船學校本科生徒ノ儀ハ卒業ノ上常時各商船ニ從事セシムト雖モ海軍豫備員志願者ニ限り入校為致候ニ付海軍必要ノ學科モ兼學セシメ候間該生徒ハ徵兵令中海軍生徒同様ノ資格ヲ有シ候様相定度至急閣議ヲ請フ

明治二十一年四月十六日

逋信大臣子爵榎本武揚

海軍大臣伯爵西郷從道

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

本日付官甲水二〇四六号ヲ以函館商船学
校生徒ニ付海軍通信處大臣連署ヲ
以内閣總理大臣ニ送儀奉命其意力ニ及
テ至多ク要スル件ニ付是等取合キ之
議ニ提出出来ル程ニ所針 且之度以及
中依輕也

明治三十四年四月二十日
官船局長西郷從道



官船局長西郷從道

通甲一五号

明治三十二年四月十九日

閣總理大臣

法制局長官

各省大臣

内務	外務
陸軍	大蔵
司法	海軍
農商務	文部
	逓信

海軍逓信兩大臣連署請議函館高船學校生徒、
 件ヲ按スルニ既ニ東京高船學校ノ生徒ハ徵兵令第十
 八條第四項海軍生徒ニ準シ徵集猶豫ニ屬セリ然
 レ六函館高船學校生徒ノ儀モ全様徵集ヲ猶

豫セテ妨ケナシトス但其学科分明ナラサルニ付主務
有ニ就キ取調タルニ目下校則ハ東京高船学校規則ト
同一ニ改正セシト調査中ニ趣ニ付請議、通裁可
セラレ可然ト認ム

内閣訓令第五
逕信大臣へ訓令

其有所轄函館高船学校生徒ノ儀ハ徵兵令第十八條
第十八條第四項海軍生徒ニ準シ徵集ヲ猶豫ス

ル職心ヲ得ヘシ
明治三十四年四月

陸海軍兩大臣へ訓令 各通

逕信有所轄函館高船学校生徒ノ儀ハ海軍

豫備員志願者ニ限ルヲ以テ徵兵令第十八條
第四項海軍生徒ニ準シ徵集ヲ猶豫スル儀ト
心得ヘシ

全

参照

徴兵令

第十八條

在掲名者ハ其事故ノ存ニ付徴集シ猶豫ス

第四項 陸海軍生徒海軍工吏

東京商船学校生徒ノ義ニ付重請

農商務省所轄東京商船学校生徒ノ義ニ付當時各商船ニ從
事セシムルト雖モ海軍豫備員志願者ニ限リ入校為致スニ付海
軍兵學校ニ通學セシメ海軍必要ノ学科ヲ兼學セシメ候
生徒ニ徴兵令中海軍生徒ニ付ノ資格ヲ有シタル
決定ノ相事及中身會議ノ上稟請仕ル也

明治十七年六月廿七

農商務卿

海軍卿

法務卿

太政大臣宛

參事院議

東京商船學校生徒ノ義ニ常時商船ニ從事ストモ又海軍
豫備員志願ノ者限リ入校セシメ其學校ニ通學シ卒業ノ
後ハ海軍豫備員トナルハキマニ付徴兵令第十八条第四
項海軍生徒同様徴集於豫ニ屬セラレ他ニ支障ノ
虞無之依テ「稟請」通裁可ノ上左ノ通可達相
本可然ト認定ス

農商務省

其省所轄東京商船學校生徒ノ義ニ徴兵令第十八条
第四項海軍生徒ニ準シ徴集於豫ニ屬セラレ此等扣
達候事

明治十七年八月十一日

陸軍省

海軍省

農商務省所轄東京商船學校生徒ノ義ニ海
軍豫備員志願ノ者限リ入校セシメ其學校ニ通學シ卒業ノ
後ハ海軍生徒ニ準シ徴集於豫ニ屬セラレ他ニ支障ノ
虞無之依テ「稟請」通裁可ノ上左ノ通可達相

明治十七年八月十一日

逓信省告示 十五年四月

東京商船學校規則

第二條

本校生徒トナル者ハ海軍豫備員志願ノ者ニ限ル

第三條

生徒卒業ノ後ハ航海科ニ在リハ商船ノ船長運轉手航海科ニ在リハ

機関手ノ業務ニ従事スルモノトス

第四條

生徒卒業ノ後ハ海軍士官或ハ准士官ノ豫備員トシテ海軍ニ籍ニ編入シ海軍一定ノ規則ニ據リ服役セシムルモノトス

第二章

教科

第五條

生徒修業ノ期ハ五箇年ト定ム

第六條

航海科生徒ノ學科ハ下課程ヲ分テ五級トス其第五級ヨリ第二級ニ至ルモノハ本校ニ在テ毎級六箇月以内ニ在ニ據リル學科ヲ學ハシム

但砲術ノ一科ハ海軍兵學校ニ於テ之ヲ教授ス

第五級

第四級

和漢學

英學

數學

運用術

砲術

第三級

第二級

英學

機關學大意

航海術

運用術

砲術

其方一級、航海船二乗但し満三箇年間航海ノ実科
ノ修業セシム

第七條

機関科生徒ノ學ヲ二年課程ヲ分テ四級トス又其方
四級ヨリ方三級ニ至ル迄ハ本校ニ在テ毎級六ヶ月以内ニ
方ニ掲グル學科ヲ學ハシム

但し砲術ノ一科ハ海軍兵學校ニ於テ之レヲ教授
ス

方四級

方三級

和漢學

英學

數學

機関學

製圖

砲術

其方二級ハ機関學ニ在テ滿三箇年間機械製圖ノ実
科ヲ修業セシム其方一級ハ航海船二乗但し満一箇
年間機関運轉ノ業ヲ修メシム

四月廿七日

逋信省所轄函館商船學校生徒ハ徴兵ヲ猶豫ス

陸軍省訓令 北海道廳 府縣 沖繩縣

逋信省所轄函館商船學校生徒ハ儀ハ徴兵令第十八
條第四項海軍生徒ニ準ニ徵集ヲ猶豫スル儀ト心得

ヘシ 廿一年四月廿七日